

「平成17年度専攻科研究論文」第9回公開発表会

開催にあたって

高等専門学校は、中学校を卒業して、子供から大人へと成長する、人生の中で最も伸びる盛りの5年間に、周到に計画・整備された教育プログラムに沿って、優秀な教職員が大学にも劣らない充実した設備と施設を使って、少人数のクラス編成による高度な理論的基礎科目の講義・演習と先端的な科学技術に関する豊富な実験・実習・実技を通じて、きめ細かな実践的・高度技術者教育を行う、世界的にも珍しい制度を持った高等教育機関です。

体育、文化の課外活動が活発に行われていることも高専の大きな特色です。学校側も設備・指導の両面から大いに推奨し、学生も大学受験に煩わされず、熱心に取り組んでいます。ロボコンや全国体育大会など全国規模で活躍できる場にも恵まれ、日頃の練習や親身な指導を通して、学生の心身の健全な成長・発達に役立てています。

現在、全国で国立55校、公立5校、私立3校、合計63校の高等専門学校があり、入学定員は全国で約1万人。高等教育機関とはいえ、入学者は同年齢の若者百数十人に一人という、非常な少人数の学校と言えます。

日本工業界の急速な発展を眼前に、中堅技術者の大量養成が急務となって約40年前に設立され始めた高専は、その後、中堅と言う当初の目標を超えて、世界の科学技術開発競争の第一線で活躍する幾多の優秀な人材を輩出してきました。

北九州高専も昭和40年設立以来、5千名を超える優秀な人材を世に送り出してきました。この間、国際的経済競争が激化するにつれて、高度な科学技術が我が国の明日を託せる唯一の有効な手段であることが再確認され、高専も更に高度な技術開発能力を持った人材を育成する必要性が高まり、本校にも平成8年、生産工学専攻、制御工学専攻、化学工学専攻（現在、物質化学工学専攻）の三専攻からなる2年制の専攻科が設置されました。

5年間の本科の教育を基礎コースとするならば、専攻科は応用コースと言うべきもので、本科のクラス一斉のお仕着せ教育が主体であるのに対して、学生一人一人が自ら問題を発掘し、知恵と情報を総動員して自力で独自の解決策を見出す能力を涵養することに主眼が置かれます。専攻科で2年間にわたって取り組む「特別研究」はその集大成と言えます。

平成16年全国55校の国立高専は纏めて一独立行政法人となり、大学と同じく高等教育機関の一員としての役割が法文に明記され、従来の学生の教育に加えて、教育研究活動を通じた地域社会等への協力、連携も業務として明文化されました。

本校も学生教育だけに留まらず、開かれた「北九州高専」を目指して、地域社会との連携協力を積極的に推進して行きたいと考えています。この発表会は本校の教育研究の具体的内容や教員陣、施設設備など本校が持つ資産を知って戴く良い機会の一つでもあります。

地域産業界に密着したテーマは実践的技術者養成を目指す高専専攻科の研究課題として教育効果の面からも極めて有用であり、企業の方々のご意見やご提案は非常に貴重な糧や参考になります。

お陰様で今年は第9回を迎えました。ご多用中、お手数ではございますが、是非御参加頂き、学生や教員の励みや反省に繋がる、忌憚の無いご意見やご提言を給わりますようお願い申し上げます。

平成18年1月

北九州工業高等専門学校

校長 陣内 靖介